

【にんげん部門（高校生の部）・最優秀賞】

恩返し

私立昭和学園高等学校 2年 和田 樹佳

私には尊敬する人達があります。それは、災害が発生した時に被災地でボランティア活動に参加される方達です。私は小学校四年生の夏九州北部豪雨で被災しました。幸いにも家はあまり被害がありませんでしたが、道中で大規模な土砂崩れが発生し家に帰れない日々が続きました。学校へも通える状況ではなく私は学童へ行くようになりました。沢山の方が毎日先生として来てくれました。やっと会えた友だちとも遊んでいる途中で喧嘩が始まるのがほぼ毎日続きました。そんな日々を過ごし学童最終日に一人の先生が、「最初はみんな家に帰れない事や家族と離ればなれになっている事からのストレスで喧嘩が絶えなかったけどみんなの笑顔が見れてよかったです。」と話してくれました。私はこの時友達や先生方に激しくあたってしまっていた自分に気付きました。そして沢山の方に支えられている事を改めて感じました。また、家の周りの片付けが私達だけでは難しく、ボランティアの方をお願いして一緒にしました。六人くらいのボランティアの方が来てくれました。その中にいた女性二人は仕事が休みの日に福岡から来てくれていました。被災した私達の地域が安全と言える状況ではない中でも来てくれた事にとっても感動しました。私はそれまで、ボランティアに行く人はすごいなぐらいの軽い気持ちで大人になって自分が行っても何ができるのか本当に役に立てるのかとマイナスなイメージが正直大きかったです。だけど、暑い中私達のために頑張ってくれる姿を見てかっこいい私も必ずボランティア活動に参加しようと思いました。災害ボランティアと言うと力仕事のイメージが大きいですが心のケアなど様々なボランティアがあります。私は豪雨を通して沢山のボランティアの方と関わりいろんな場面で救われ人の温かさに触れることができました。沢山の人に支えてもらったぶん次は私が一人でも多くの人を支えられる存在になりたいです。